



吸入薬の知識

喘息や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器疾患は、長期的なコントロールが必要な疾患であり、治療や発作予防のために主に吸入薬を使用します。吸入薬は様々な吸入器を用いて口から薬剤を吸入します。薬を吸い込むことで肺などの下気道に直接到達させるため、効果の速効性が期待出来ます。また、局所療法であることから内服薬と比べて全身性の副作用が少なく済むことが利点です。

吸入器の種類

ドライパウダー吸入器(DPI)、加圧定量噴霧式吸入器(p-MDI)、ソフトミスト定量吸入器(SMI)の3種類に分かれます。

吸入薬の名称から吸入器の種類が判別できることがあります。

■ ドライパウダー吸入器(DPI)

ディスクス、タービューヘイラー、ツイストヘラー、エリプタなど



■ 加圧定量噴霧式吸入器(p-MDI)

エアゾール、インヘラー、エアー、エロゾールなど



■ ソフトミスト定量吸入器(SMI)

レスピマット

吸入の操作方法

吸入の手順は、吸入器の種類に関わらず下記の5段階で構成されます。

- ①薬の準備→②吸入前の息の吐きだし→③薬の吸入→④息止め→⑤うがい

種類別の操作方法のポイントを紹介します。



吸入器	ドライパウダー吸入器(DPI)	加圧定量噴霧式吸入器(p-MDI) ソフトミスト定量吸入器(SMI)
①薬の準備	薬のセットを行う	容器を良く振る (初回のみ空打ちを行う)
②吸入前の息の吐きだし	深呼吸の様にしっかり吐き出す	自然に吐き出す
③薬の吸入	素早く深く吸い込む	ゆっくり深く吸い込む
④息止め	薬剤の沈着率を高めるため5秒~10秒間息を止める	
(続けて吸入する場合)	間隔を空けず吸入が可能	30秒~60秒間隔をあける
⑤うがい	ステロイド剤を吸入した後は必ず行うこと。 その他の製剤についてもうがいを行うことが望ましい。	

吸入薬の薬効分類と特徴

① ステロイド剤

気道の炎症を抑えます。気管支喘息治療の第一選択薬です。内服薬を用いるより全身性の副作用が軽減出来ます。声枯れ、口腔カンジタ、喉の刺激などの副作用に注意が必要です。

② β 2刺激剤

気管支を弛緩させ気道の閉塞を改善します。長時間型と短時間型があります。高血圧や糖尿病患者は症状の悪化に注意が必要です。複数の吸入薬を使用し、かつ短時間型の β 2刺激剤を含む場合には、一番最初に行うことが望ましいです。

③ 抗コリン剤

気管支拡張作用は一般的に β 2刺激剤よりも強いと言われます。長時間型と短時間型があります。口渇、便秘などの副作用に注意が必要です。また緑内障、前立腺肥大症は症状の悪化に注意が必要です。

吸入薬は正しい操作をしなければ効果に差が出てしまうことがあります。吸入器の種類によって操作方法が異なるため、薬剤の説明書を参考にし、正しい操作を行うようにしてください。吸入薬や吸入操作についてご不明な点があれば医師や薬剤師にお問い合わせください。